

京のセントラルパーク、歴史と自然のストック

京都御苑の魅力を発信

京都御苑



NEWS

Kyoto Gyoen
National Garden
News

autumn

秋

第153号
2022.9.1

京都御苑ニュース

CONTENTS

- ▶人工と自然、手入れのこと
- ▶夏から秋のきのこ二種とその生態について
- ▶御苑界隈そぞろ歩き
- ▶学生コラム ー京都大学ー
- ▶Information



人工と自然、 手入れのこと

京都御苑は江戸期まで御所を取り囲む宮家や公家の家々が建ち並ぶ屋敷街だった。明治以降天皇とともに公家達も東京へ移り住み、廃屋となった二帯を整理するために国家事業として樹木を植栽し公園化された。京都御苑は人工的に作られたものであるが、百五十年近くを経てそこには独自の生態系も育まれている。自然科学から文化社会現象に至るまで多くの著作を有し、かつて京都国際マシナリウム館長として京都とも縁の深い養老孟司氏が自然とのつきあい方について語る。

養老孟司

庭園や公園が私は苦手である。もちろん広さにもよるが、自然度が高い所には虫がいるから、ついそれが私の基準になってしまう。そうなる、いわゆる公園は人工度が高すぎていけない。私は神奈川県鎌倉市で生まれ育ち、今でも住んでいるから、最寄りの山や川が子どもたちの時から観察と採集のフィールドだった。

鎌倉には寺社が多く、寺社の裏山は庭園からそのまま山に続くところが多かった。年中寺社の庭とその裏山を歩いていた。近年は寺社も領域をきちんと定めて、領域内を整備する傾向があるので、いささか面白くなくなった。とくに土が露出している状態を現代人は嫌うので、舗装したり、砂利を引いてしまうことが多い。それで多くの虫が住処をなくして消えることになる。美しいハンミョウはその典型である。

もつとも自然と言っても、なにが本来の自然かは、簡単には決められない。最近、近所の寺の裏山を歩いて、いわゆる雑草を観察していると、半分以上が外来種のような気が

京都御苑、落葉敷きつめる母と子の森「森の文庫」



紅葉と京都御所建春門

する。カナムグラなんて、古来からの雑草の典型だと思いが、家の近所の山への上り口に生えているのは、シラホシムグラという種らしい。植物名を覚えてくれる便利なアプリがあるので、それに頼るのだが、庭のアザミをこれで調べてみると、アメリカオニアザミなどが出てくる。アザミにつく甲虫は何種もあるが、最近それらを見かけないのは、古来の日本のアザミがなくなっただけかもしれない。

クヌギシギゾウムシ (京都御苑 トンボ池)



撮影：河合嗣生



マユミの実 (京都御苑 西園寺邸跡)

リカも日本もないらしい。マユミでさえあれば、それでいいのであろう。植物は目に見え、花が咲くからわかりやすい。問題は地中の菌類である。菌類はキノコの形をとらないといえることもわからないし、同定もできない。菌類に依存する虫が多いことは、クワガタムシの飼育ではつきりしたことである。菌類は土中に菌糸の網の目を伸ばしているが、クワガタの場合は、腐朽した木材に幼虫が棲み、木材というより、そこに生きる菌類に依存するらしい。朽木に棲む虫は種類が多いが、その多くは菌類に依存しているのであろう。

土中の菌類相が自然のままに保たれていることが、農業にとっても重要である。最近では「カーボン・フーミング」という考え方があって、これは土中に炭素を保存するよ



京都御苑、閑院宮邸跡の庭園

うな農業を行うということで、化学肥料や除草剤の投与で失われる土中の菌類を保存するというのが主眼である。

ヒトは自分の功績を誇りたがる生き物である。「ひとりでの収穫を得た」というのは気に入らない。そこにどれだけ「自分の功績があったか」を言いたいので、額に汗して地面を耕すことになる。不耕起、つまり耕さなくても収穫は普通にあるというのでは、気に食わないのに違いない。手入れの行き届いた庭園を見ていると、ついそういうことを考えてしまう。どこまで、どう手を入れれば最善なのか。これは正解のない難問であろう。人生そのものにも通じる問題だからである。

(解剖学者／京都国際マンガミュージアム名誉館長)

▼御苑と周りの自然とのつながり —生態系のネットワーク— ▲
夏から秋のきのこ二種とその生態について
北出雄生



写真1：チチアワタケ (佐野修治氏提供)

京都御苑の広大な敷地内には様々な樹種が存在しており、それぞれの樹種をとりまく多様な生態系が構成されている。「きのこ」類も例外ではない。ここでは、京都御苑で秋季(九月ごろ)にみられる「きのこ」二種を紹介しつつ、生態系における役割について解説する。



写真2：チャタマゴタケ (褐色型)

夏から秋にかけて(七月〜九月)は、近畿地方で最もきのこの発生がさかんな時期である。九月ごろ、暑さが少し和らぎ、台風や秋雨前線による降雨が増えてくると、苑内いたるところのマツやブナ科広葉樹の樹下に、びっしりと地面を埋めるように生える様子を見ることが出来る。中型から大型のまさに「きのこ」という形をしたものも多く、視覚的にも一番楽しめ、また写真映えもする、きのこ好きにはたまらない時期である。ここでは代表的なものとして、イグチの仲間とテングタケの仲間について一種ずつ例を挙げて解説する。

イグチの仲間は傘の裏側がひだではなく管孔であるのが一般的な特徴である。その中で傘の表面にぬめりがあるものがヌメリイグチの仲間である。ヌメリイグチの仲間のひとつ、「チチアワタケ」は苑内で最も多くみられる種の一つで、七月〜九月ごろにマツ樹下のいたるところに発生する(写真1)。比較的若いものをよく観察すると、管孔から乳液が確認できることがあり、これが和名の由来となっている。

テングタケの仲間は、柄の上部にマントのような「つば」

学生コラム

蝶類の観察ポイント

京都大学大学院農学研究科森林科学専攻修士2回生
環境デザイン学分野 袁 月

蝶類は一体どこにいるんだろうと思われる方もいるかと思いますが、実は蝶類を簡単に探す方法があります！

蝶類は植物と緊密な関係にあり、幼虫段階の蝶は、決まった植物(食草)しか食べません。蝶類の食草が生育している近くでは、蝶類観察は比較的簡単です。例えば、ヤマトシジミを見つけた時は、その食草であるカタバミの周りを注意して観察してみてください。他にも、蝶類の飛び方や形や色などで、大体の種がわかります。研究者のように同定できずとも、少しでも見分けることができれば、もっと楽しくなると思います。例えば、京都御苑でとても早く飛ぶ大型で緑色の帯が美しい個体は間違いなくアオスジアゲハです。また、草地の上で吸蜜や休憩を行う、小型で橙色を帯びている個体はベニシジミでしょう。

植物の多様性が高い京都御苑は、蝶類の多様性も高いと考えられます。蝶類の観察ポイントを少し知ってもらい、蝶類観察を楽しみましょう！



カタバミの上に止まっているヤマトシジミ
(2021年6月25日撮影)

京都にある民間放送局として昨年開局七十周年を迎えました。京都御所の西、蛤御門近くの現在の社屋に移るのが昭和五六年(一九八一年)。そこから四十年、私も若手時代には、営業の外回り」と称し御苑で



烏丸通に面するKBS京都社屋

悠久から未来へ

KBS京都が目指すもの

御苑界限そごろ歩き

湯浅 勝

昼寝、何食わぬ顔で会社に戻ると上司にバレバレ、髪にすっかり葉っぱが付いていたりして……。

KBS京都は、絶滅寸前の原種・藤袴を育てる『守ろう！藤袴プロジェクト』を推進してきました。育成から社員が行い、開花する初秋には京都御苑の休憩所をはじめ様々な場所で藤袴を展示、『日本書紀』『万葉集』にも登場する藤袴の



ラジオスタジオ風景

悠久の世界に人々を導いてきました。コロナの影響もあり活動は一旦休止として



KBS京都敷地内で藤袴の育成を行う

KBS京都
京都市上京区烏丸上長者町

いますが、その精神性を引き継ぐべく、この春から『KYOTO SDS』キャンペーンを立ち上げました。ラジオ・テレビを通じ「自然と共生」し「人と共生」する、そんな社会を目指す多彩なメッセージを丹念に拾い上げていきたいと思う。京都御苑の木々たちに見守られながら(株)会社 京都放送(KBS京都) 取締役



写真3: チャタマゴタケ(黄色型)

下部に「つぼ」(様々な形状のふくらみ)をもつのが一般的な特徴である。七月〜九月ごろ、苑内のシイやカシの樹下には「チャタマゴタケ」が発生しているのがみられる。この種は九州など南方を中心に分布し、発生は比較的古くであったが、近年は近畿地方の様々な場所で見られるようになってきた。本種の典型的なものは褐色型(写真2)であるが、それに加えて、黄色型(写真3)や白色型も存在している。京都御苑はこれら三つのタイプを同時に観察することができ非常に恵まれた観察地である。

「きのこ」は「真菌」というグループの生き物で、生物の教科書等では、生物遺体を分解してエネルギーを得る「分解者」として、植物(生産者)、動物(消費者)とともに生態系を形成すると紹介されている。ところが、ここまでに挙げた種類はこれにはあてはまらず、植物と深い関係を持ちながら生きていく「菌根菌」である。「きのこ」の本体である「菌糸」が植



写真4: マツ樹下のイボテングタケ。菌と植物は地中でつながり物質交換を行いながら共生している

十一月ごろになり気温が下がってくると、上にあげたような「菌根菌」は徐々に姿を消し、木材や落ち葉の分解者である「腐生菌」が目立つようになってくる。この時期の「きのこ」についてはまた稿を改めて紹介したいと思う。

(京都自然観察学習会
/ 京都御苑きのこ会)

■ イベントのお知らせ

京都御所の通年公開

公開日：通年(事前申し込み不要/無料)
ただし、下記は休みとなります。
月曜日(祝日の場合は翌日)
年末年始(12月28日~1月4日)
行事等実施のため支障のある日
公開時間：9月/9:00~16:30 (入場は15:50まで)
10~11月/9:00~16:00 (入場は15:20まで)
入場門：御所清所門
アクセス：御苑北西角 乾御門より(地下鉄今出川
③出口 市バス烏丸今出川 徒歩8分)
お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都仙洞御所の参観

事前申し込みに加えて当日受付も行われています
当日受付：京都仙洞御所にて11時頃から先着順に
整理券を配布。(満員になり次第終了)

当日受付枠は13:30、15:30。
各時間とも定員は10名。

お問合せ：宮内庁京都事務所 ☎075-211-1215

京都迎賓館一般公開

日本の歴史・文化を象徴する京都で、海外からの
賓客をお迎えし、日本への理解と友好を深めてい
ただくための国の迎賓施設です。

公開日程：迎賓館のホームページでご確認ください。

参観料金：大人 2,000円 大学生 1,500円

中高生 700円

参観受付：清和院休憩所

お問合せ：迎賓館京都事務所 ☎075-223-2301



京都迎賓館
桐の間

京都御苑 自然ふれあいイベント

① 京都御苑 秋の自然教室

日程：令和4年10月開催予定。
内容：秋の御苑で見ることでできる生き物を観察します。

② 京都御苑 初秋のトンボ池一般公開

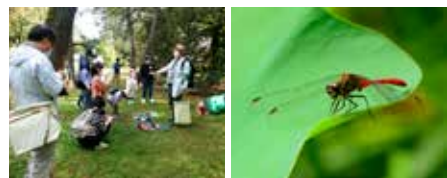
普段は立ち入りを制限している「トンボ池」を公開します。
日程：令和4年9月開催予定。

場所：京都御苑トンボ池(富小路口北東へ徒歩5分)

主催：環境省京都御苑管理事務所

運営：(一財)国民公園協会京都御苑

※詳細は決まり次第ホームページなどでお知らせします。



■ 苑内利用施設・サービスのご案内

閑院宮邸跡収納展示館/京都御苑総合案内所

京都御苑南西角の閑院宮邸跡に建つ公家屋敷の
風格残る旧宮内省建物の遺構です。展示室では
京都御苑の歴史や自然をVR映像などで学べま
す。また京都御苑の総合案内所として、マップ
や苑内の見どころなど旬の情報を提供。

開館時間：9:00~17:00 (展示室は16:30まで)

休館日：年末年始 ※展示室は月曜日閉室

アクセス：御苑南西角 間之町口すぐ(地下鉄丸太
町①出口 市バス烏丸丸太町 徒歩5分)



VRシアター

拾翠亭(茶室)

五摂家の一つであった九條家の現存する唯一の
建物で、江戸時代後期に建てられました。

公開日：毎週木・金・土曜日、葵祭、時代祭 9:30~
15:30 ※諸事情により参観休止の場合あり。

参観料 300円(中学生以下無料)

貸切利用：茶会、句会、謡曲等の会合にご利
用できます。(公開日除く)有料
※詳細はホームページをご参照ください。

京都御苑情報館

本年5月にオープンした中立売休憩所に隣接す
る新施設。京都御苑のジオラマ模型など御苑全
体の歴史や自然を紹介しています。

開館時間：9:00~16:30

休憩所(レストハウス・売店)

休憩やお食事・喫茶にご利用ください。京都御
苑オリジナルのお土産物も多数揃えています。

中立売休憩所(「京都御苑 檜垣茶寮」)

営業時間：9:00~16:30

京都御所前に位置し、御苑の木々に囲まれた「森の
休憩所」。中立売駐車場に隣接し、京都御所参観
へのアクセスは抜群。セツメニューから軽食、カフェ
まで木の香る落ち着いた雰囲気の中でお食事ができ、
売店「檜垣」では、御所限定のオリ
ジナル商品を多数取り揃えています。
KYOTO-WiFi(無料)も利用可能。



@kyotogyoen_
resthouse



御所の華弁当
右近の橋(刺身付き)
(要予約)

近衛邸跡休憩所(本年5月新規オープン)

京都御苑北西部の近衛邸跡にあり、児童公園に
隣接。シダレザクラに囲まれゆったりと和スイーツで
カフェタイムをお過ごしください。



福来(ふくら)どらやき
黒蜜きなこスベッパル

清和院休憩所(本年5月新規オープン)

京都御苑東部の京都仙洞御所や京都迎賓館参観
口前に位置し、清和院駐車場からも近接。

富小路休憩所(御苑南東富小路口すぐ、テニスコ
ート隣接)現在無料休憩所として利用できます。

※詳細はホームページをご参照ください。

運動施設

富小路テニスコート(5面) 有料

富小路広場(6面)/今出川広場(3面) 有料
軟式野球・ソフトボールなどにご利用ください。

申し込み：(一財)国民公園協会京都御苑

駐車場

中立売駐車場(乗用車・バス併用/乗用車131
台・バス16台)

利用時間：乗用車 7:00~20:00 (24時間出庫可)
バス 8:00~17:00

料金：乗用車 800円(3時間まで)

当日最大料金 1,200円

バス 2,000円(3時間まで)

●夜間のバス利用について

利用時間：入庫 17:00~20:00 出庫 翌朝8:00まで

料金：1泊 3,000円

清和院駐車場(乗用車専用/81台)

利用時間：7:00~20:00 (24時間出庫可)

料金：800円(3時間まで)

当日最大料金 1,200円

※詳細はホームページをご参照ください。

京都御苑Instagram/Twitterで紅葉情報をチェック!



@kyotogyoen_info



@gyoen_info

* 京都御苑における新型コロナウイルス感染拡大防止対策について

■ 苑内のご利用に当たり次の予防対策にご理解、ご協力お願いいたします

- ・マスク着用、咳エチケット ・手洗い、手指の消毒
・ソーシャルディスタンスの確保
・密集回避のためレジャーシートを使用する際は、人との距離を十分に保つ



会員募集(2022年度)のお知らせ

2022年度(2022年1月~12月)の
国民公園協会京都御苑会員を募集し
ます。

■ 年会費

● 普通会員..... 1,000円以上

● 賛助会員(会社・団体)

..... 10,000円以上

■ 会員特典

1 京都御苑ニュースの送付

2 申し込み年度の葵祭及び時代祭の
観覧席招待券の進呈(ただし普通会員
は会費4,000円以上の方に限ります。)

■ 申し込み・お問合せ先

(一財)国民公園協会京都御苑



編集後記

昆虫と植物、植物と菌類との関係性は深く、人
類を支えているといってもよいが我々はそのこ
とをほとんど知らない。御苑の自然についてもど
う対処すればよいか、養老先生から提示され
たなかなか正解の出ない難問であるが、つきあ
い続けねばならない。(発行人 池田善一)

企画・発行/お問合せ先

一般財団法人 国民公園協会 京都御苑
〒602-0881 京都市上京区京都御苑3
TEL 075-211-6364

編集

白川書院

監修

環境省京都御苑管理事務所



注釈配合率70%再生紙を使用しています